

PEM021-01

会場:ファンクションルームA

時間: 5月24日09:00-09:15

## 今サイクル(第24太陽活動周期)の太陽活動の状況: 100年ぶりの低調な太陽活動

### Solar Activities in the Current Solar Cycle (cycle 24): the lowest activity level in one hundred years

石井 貴子<sup>1\*</sup>

Takako Ishii<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>京都大学大学院理学研究科附属天文台

<sup>1</sup>Kwasan and Hida Observatories, Kyoto-U.

太陽の黒点の数は、約11年の周期(サイクル)で増減することが知られている。黒点周辺ではフレアやフィラメント噴出など宇宙天気に影響を及ぼす様々な活動現象が発生する。

1755年からの第1活動周期から数えて23回目の前回のサイクル(第23太陽活動周期)は、1996年から始まり、2001年ごろが黒点の数が最も多くなる極大期であり、その後、黒点の数は減少していき、極小期を迎えた。2008年1月に始まった今サイクル(第24太陽活動周期)の黒点相対数は極めて低調な立ち上がりを示し、黒点がなかなか増えないことが新聞その他で話題となった。年間の無黒点日の日数は、2008年が265日、2009年が261日と、記録のある範囲(1818年以降)、6番目と7番目に多い日数であり100年ぶり(1901年:287日、1902年:257日)に低調な太陽活動といえる。2009年後半から、大きめのプロミネンス噴出やC-class(小規模)フレアなど活動現象が稀に発生し、2009年12月中旬ごろから黒点のある日が多くなってきた。2010年に入って、今サイクルの極性の活動領域で初めてM-class(中規模)フレアが発生した。

本講演では、黒点数・フレアなど活動現象の統計データを中心に今サイクルの太陽活動の状況をまとめる。また、最近のやや活発な活動領域について、京都大学飛騨天文台の太陽磁場活動望遠鏡(SMART)などで得られた画像やムービーを紹介する。

キーワード:太陽,黒点,活動周期

Keywords: Sun, sunspot, solar cycle